

昔と今のカリキュラムを比べる事で、
日常臨床の見え方が変わる材料のはなし

中川 隆志 (なかがわ たかし)

臨床の現場で何故か失敗が続き、説明書や文献をあたってみると学生時代に学んでいた材料の知識に立ち返る。そんな経験はあるでしょうか。現在のカリキュラムは幅広く、その後の歯科技工士人生で役に立つ知識を網羅しています。一方で臨床現場からは「最近の学生は…」といった心ない声も耳にします。果たして本当にそうでしょうか。2016年より国家試験は全国统一され、その内容にはCAD/CAMやインプラントも含まれるようになり、2年間で学ぶ内容は増え続けています。

非常勤講師とカリキュラム編成委員を続ける中で、臨床現場と学校教育の境目で気づいた事をまとめました。wax up と鋳造が主流であった時代と最新のカリキュラムを比較することで、変わったことと変わらないことを知り現在の臨床に活かす材料のはなしをしていきたい。本講演により世代間に横たわる溝が少しでも埋まれば幸いです。